



UDレストラン



背景

店への入店のしづらさは誰もが経験したことがあるのではないかと。そこでアンケート調査を行ったところ約8割の人が入店しづらさを感じたことがあり、最も多い要因は店の雰囲気だと分かった。そのため、店の雰囲気を改善することで、入店のしづらさを解消することができると思った。私たちは、性の違いや身体の不自由な方の飲食店への入りづらさに焦点をあてて、探究を進めた。

研究内容・目的

- ・ 仮説 : 店の外観・内装の配色や照明、構造などは入店のしやすさに影響する。
- ・ 目的 : ユニバーサルな店のつくりを考え提案する。
- ・ 検証方法 : 企業への取材
三高祭でのアンケート調査
特別支援学校への取材

調査・実験の方法

- 企業への取材
 - ・ 12社の飲食店に対して実施
 - ・ 「ジェンダーフリーな店の実現」の為に外装・内装で工夫している点や行っている取り組みをメールで取材。
- 三高祭でのアンケート調査
 - ・ 対象:三高生、先生方
 - ・ 企業への取材をもとに店舗の内装の写真を複数用意、入店しやすさの傾向を調査。
- 特別支援学校への取材
 - ・ 対象:聴覚支援学校、視覚支援学校
 - ・ 入りづらさに関する体験談、どのような店に入りやすさを感じるか、私たちが事前に考えた店の工夫点に対する意見などを取材。

UDレストランレイアウト図



- ・ オールジェンダートイレの設置
- ・ ドアノブが大きいドアの設置
- ・ 各テーブルに注文用のiPad、QRコード設置
- ・ 通路幅は150cm以上
- ・ 床に色のついた線をつける(トイレ、出入り口の案内)

まとめ

企業、特別支援学校への取材とアンケートによる調査から、内装や構造、注文方法などを配慮することでだれもが入店しやすい店をつくることは可能だとわかった。
→わたしたちの仮説は成り立つといえる。

調査・実験の結果・考察

○企業への取材

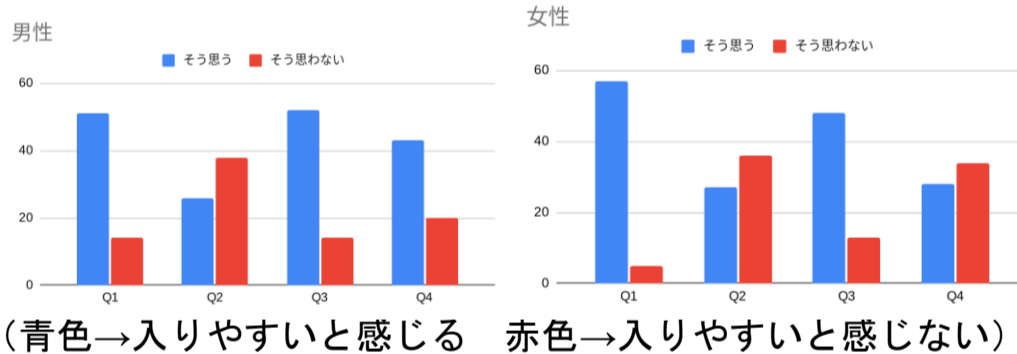
A社	・店舗の立地、大きさ、周辺環境の考慮 ↳環境・時代変化に合わせ柔軟に対応
B社	・木目調の内装デザイン ↳あたたかい雰囲気つくる ・買いやすさ、体験価値向上 ↳「もっと近くに より快適に」を目標
C社	・段差×、通路・家具の幅、家具の高さの考慮 ↳誰もが使いやすい店づくり ・床の設計 ↳スタッフとお客さんの目線の高さを合わせる ・臨場感のある厨房設計 ⇒身近に感じてもらうための距離感

○三高祭でのアンケート調査

- Q1木目調の内装は入りやすいと感じるか。
- Q2木目調でない内装は入りやすいと感じるか。
- Q3 暖色の照明は入りやすいと感じるか。
- Q4寒色の照明は入りやすいと感じるか。

↓男子

↓女子



- ・ 男女ともに木目調の内装、暖色の照明に強く入りやすさを感じた。
→温かさ(アットホーム感)、落ち着き、優しさを感じる。
- ・ 寒色の照明でも入りやすさを感じる人は多いものの、暖色のほうが入りやすいと感じる人が多かった。

○特別支援学校への取材

視覚支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動ドアは手を挟む可能性あり。 ・ タブレット端末は拡大機能がないため扱うのが難しい。(iPad拡大機能あり) ・ 店員さんが券売機近くにいないと入店をためらってしまう。 ・ 呼び出しボタンは定位置にあると良い。 ・ 配膳の際、配置の説明があると良い。
聴覚支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレット端末などで注文するお店が良い。 →筆談で注文しようとしても店員さんが口頭になってしまうため。 ・ メニューの説明書きがあると良い。 ・ 人の多すぎるところは苦手。 →手話での会話を見られたり、冷たい視線を感じることもあるため。

参考文献